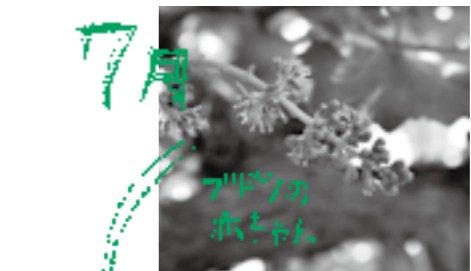
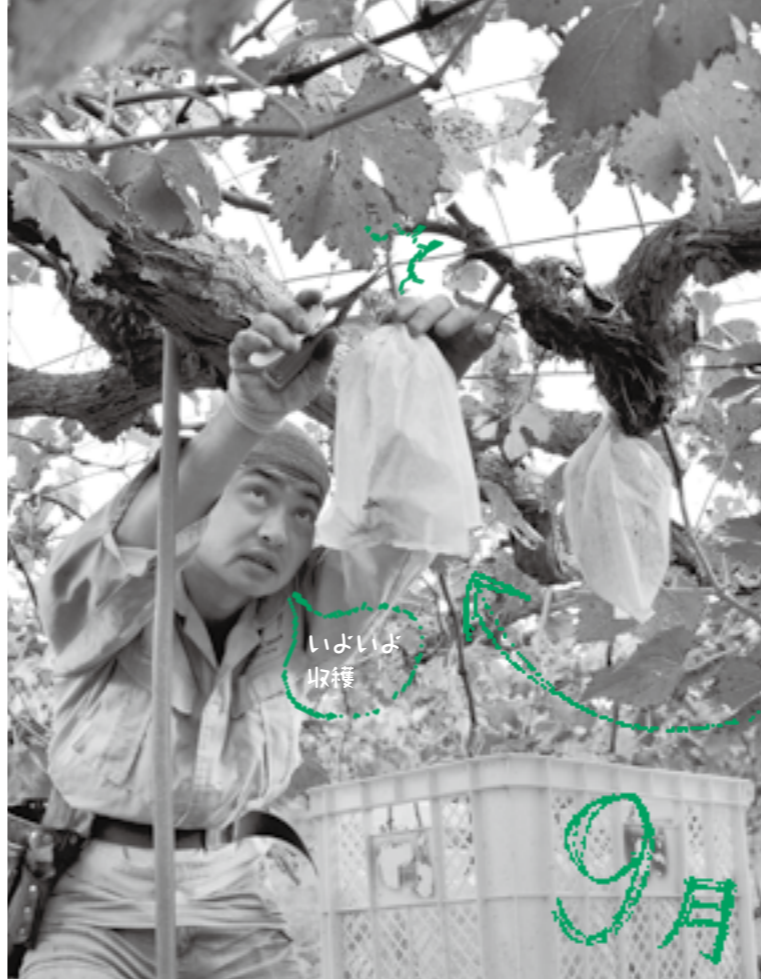


転職して就農した生産者

わたしたちが普段、□にしている食材のほとんどは、誰かの手で作られています。ここでは、移住と転職をして、就農した2人の生産者を紹介します。



収穫の朝は早い



体は、食べた物から作られる。そのことを意識して作っています。

植月 勇人さん (阿波)

手にして喜ばれるブドウ作りをしていきたいです。

中西 啓さん (南方中)



「コンピュータ関係の仕事から農業に転職して、2年目の植月さん。農業を始めたかと思っていたところ、たまたま両親が阿波に移住を決めたのだそうです。」

「会社に務めていた時は、生活リズムが不規則で、よく体調を崩していました。健康的な生活を送るためには、食事が大切だと思い、農業に興味を持ちました。」

「作物を育てる上で、気を付けていることは？」

「作物の『自立』を大切にすることです。観察はよくしますが、手を掛け過ぎないようにしています。なので、草取りも、あえて最低限しかしませんし、1つの畝に違う種類の野菜を植えることもありません。また、育てた作物のタネを採取することも大切に考えています。肥料は草の堆肥を使っています。」

「栽培が難しいですか？」

「昨年栽培は、」

「1年目は完全に失敗でした。知識は持っていたつもりでしたが、実際にやってみると、自分が失敗していること自体に気付いていませんでした。」

「どうでしたか？」

「1年目は完全に失敗でした。知識は持っていたつもりでしたが、実際にやってみると、自分が失敗していること自体に気付いていませんでした。」

「ブドウ作りを始めてみてどうですか？」

「ほかの人が選ぶそうにない職業にしようと思っていたんです。知人の紹介でブドウの収穫時期に見学に行き、農業に興味を持ちました。」

「ブドウ作りを始めてみてどうですか？」

「1年目は完全に失敗でした。知識は持っていたつもりでしたが、実際にやってみると、自分が失敗していること自体に気付いていませんでした。」

窮屈だな
押すなよ
君、大きく
なすぎだよ
君こそ



「特に、都会の人に、水と空気が綺麗な阿波に根付いた野菜が実を付ける姿を、来て、見て、味わってほしいです。そして、食材への関心を高めてもらえるようにしたいですね。」

「今後はどのようなことを目指していますか？」

「特に、都会の人に、水と空気が綺麗な阿波に根付いた野菜が実を付ける姿を、来て、見て、味わってほしいです。そして、食材への関心を高めてもらえるようにしたいですね。」

